

令和8年度 第1回四街道市生涯学習審議会 会議録

日 時：令和8年7月23日（木）13時30分から15時30分

場 所：四街道市役所本館2号棟2階203会議室

出席者：【委員】江崎俊夫（会長）、北林栄峰（副会長）、稲坂敏幸、長谷川睦美、中村嘉孝、小島英俊、矢崎征夫、川口一美、鎌田彩子、林孝夫

【職員】鈴木陽介市長、田島課長、大坂係長、藤井主任主事

欠席者：0人

傍聴人：0人

1 開会

2 委嘱状交付（鈴木市長より各委員へ委嘱状を交付）

3 市長挨拶（鈴木市長より挨拶）

4 委員紹介・役員選考（会長：江崎俊夫、副会長：北林栄峰）

5 会議の公開等

江崎会長の議事進行により、下記についての上承を得る。

①会議は公開とする。

②会議録の作成については、発言者を明記し、要点筆記とする。

③議事録署名人については、押印廃止に伴い、特に署名を求めない。

④傍聴者を確認し、傍聴人はなし。

6 議題 （1）第4次生涯学習推進計画の進行管理（令和7年度分）について

江崎会長：それでは、議題（1）「第4次生涯学習推進計画の進行管理（令和7年度分）について」事務局より説明をお願いする。

事務局：（資料1、資料2に沿って説明）

江崎会長：ただいま、事務局から説明があった件について、意見、質問等はあるか。

長谷川委員：資料1の4ページ21番について、目標値が記載されていないが、芸術文化団体連絡協議会としては5～6回を目標としていたところである。達成度についてはBで妥当だと思う。

林委員：資料1の達成度の基準を教えてください。アンケートの結果等を分析したものなのか、主

観的なものか。

また、似たような実績でも達成度AとBで差がある理由を教えてください。

事務局 : 1点目について、まずアンケートの実施はこちらで求めているものではなく、また、アンケートの結果等が達成度に反映されているとは限らないので、主観的であるともいえる。ただし、教育施策と連動した取組みとその結果に基づいて評価が決定されている。なお、目標値に対する実績値のみで達成度を決定しておらず、従来と比較した内容の充実度等も加味されている。

2点目について、あくまで担当課の自己評価である。担当課から示された評価に対して、その評価にした理由を確認することはあるが、内部評価の段階では修正に関する取り決め等は行っていない。本審議会の意見を参考に調整を行う。

林委員 : 計画最終年度は、令和6年度からの5年間と考えて令和10年度という認識でよいか。

事務局 : そのとおり。

江崎会長 : 実績について、例えば資料1の2-1の子育て学習講座は講座を実施したことはわかるが、各講座の内容についてはこの資料では把握できない。

事務局 : 今後は、内容がわかるように記載する。

なお、子育て学習講座については計画書の14ページに記載のとおり「家庭教育の重要性を講座の中で示す」事業なので、例えば早寝早起き朝ごはんやSNSの使い方などといった家庭教育に特化した項目を学校に提示し、選択してもらい提供するものである。

北林副会長 : 今の件では、やはり何をやったかが見えてくると100%あるいは80%といった評価が生きてくと思う。小学校や保育所などそれぞれの学びがあり、いろいろな家庭があるためすべてを網羅できないという現状があるものの、そこで四街道市の教育委員会がどこに重点を置いて教えてきたか、それが大きな社会教育に繋がると思うので内容がわかると良い。実施後、学校の教職員等にもアンケートを取り、「時代に合った講座が開けた」、「生徒の理解が進んだ」というような意見が出るようになれば、厚みが出た評価になってくと思う。

川口委員 : 資料2のちばりすネットの登録について、以前もっと活かした方が良いのでは、と発言したが、その後登録が増えて反響はあるか。

事務局 : 千葉県の運営するシステムのため直接こちらに声があがってくることは現状無いが、掲載されている本市の事業の閲覧者数や問い合わせ件数の照会をかけるなど、把握するよう努める。

長谷川委員 : 資料1の15と22について、実績値が目標値を上回っているのに評価がBである。Aでよいのではないか。

- 事務局 : 担当課では、到達目標がBであるため、B評価としたところである。ご意見をいただいたので、再度検討させていただきたい。
- 矢崎委員 : 資料1の27について、目標値の設定がないが達成度Aとされているのはどういう理由か。
- 事務局 : 担当課によると受入と派遣の2事業があり、スケジュール調整が困難である中、事業を実施できたということで内部評価としてAとしたということであった。
- 小島委員 : この国際交流の短期留学事業は、コロナ禍で長期間実施できない時期があったが、令和7年度はすべての事業を従来通り実施できた。このため、100%程度達成のA評価にしたのではないか。
- 事務局 : 講座等を実施する上で工夫・対応したことの欄に内容を細かく記載する、記載方法を変える等でわかりやすい資料作成に努める。
- 林委員 : 資料1の31～33の計画最終年度の成果指標について、不満を感じている方の内容はわかるか。
- 事務局 : 他の計画を策定する中で、5年ごとにアンケート調査を実施しており、令和4年調査の時に出的満足度の結果により設定したものである。現在の施設等利用者などへのアンケートとは異なるものである。
- 北林副会長 : 計画の中で事業費はあるのか。また、各事業の事業費どれくらいなのか。
- 事務局 : 事業費がかからない事業もあるが、多くは事業費を持っている。事業費は年度によって内容が異なることもあり、金額だけでは測れない部分が多い。
- 江崎会長 : 本審議会は条例に基づき設置されており、市民や子どもたちの生涯学習を充実させるために、予算確保や施策について市へ積極的な要望・提言を行っていくべきだと考えている。
- 林委員 : 地域と共にある学校づくり（コミュニティ・スクール）において、小中高校生が地域から支援を受けるだけでなく、小中高校生自身が街に出て活動する双方向の取り組みを推進すると良いと思う。
- 稲坂委員 : 子ども会では、「子どもが作る子ども会」を推奨しており、産業まつりでの「子ども商店街」として地元商店からの仕入れと販売体験を行うなどジュニアリーダー育成等を行っている。

- 長谷川委員 : 自治会のお祭りなどの行事も、子どもが自発的にボランティア等に参加することは現状では少ないが、大人から声をかけることで参加してくれることは多い。ただし、大人がどのように声をかけたらいいのか戸惑って躊躇してしまうことがあることが課題だと感じている。
- 北林副会長 : 学校教育では、「開かれた学校づくり」として外から評価してもらいながら、地域と連携して子どもたちを育てようとなってから数十年経っている。各委員の意見に出た活動は地域と協力して子どもたちが社会へ出るトレーニングとして大きな役目を果たしていると感じる。
- 鎌田委員 : 自身が携わっているイベントにおいても、小中高校生のボランティアを募集している。参加した子どもたちは、出店者に商品の作り方や材料の仕入れ先を自ら質問するなどの姿を見て、大人が子どもたちから学ぶことも多いと感じた。そのイベントは幅広い年齢層が参加しており、子どもたちと各世代の意見交換の場にもなっていると思う。そういった機会を増やしていけるとより良いのではないかなと思う。
- 稲坂委員 : 佐倉市のあるイベントでは、ボランティアとして参加した中学生にボランティア証明を発行していた。大人が中学生たちを前面に押し出してイベントを進めていた。地域の取組みに参加するきっかけの一つとしては良いと思った。
作ることは少し大変だと思うが、子どもたちが興味を示すような参加しやすい環境を作ってあげれば自然と参加してくれるようになると思う。
- 林委員 : 身体的な事情等によりイベントや講座に行きたいけど行けない、という方のために例えば在宅講座のようなことができるとより多くの方の生涯教育を支援できると思う。
- 江崎会長 : 終了時刻のため、以上で議題を終了する。それでは、議長としての任を解かせていただく。

7 その他

- (1) 参考資料：社会教育のあゆみについて
- (2) 次回会議の予定について（時期未定）

8 閉会